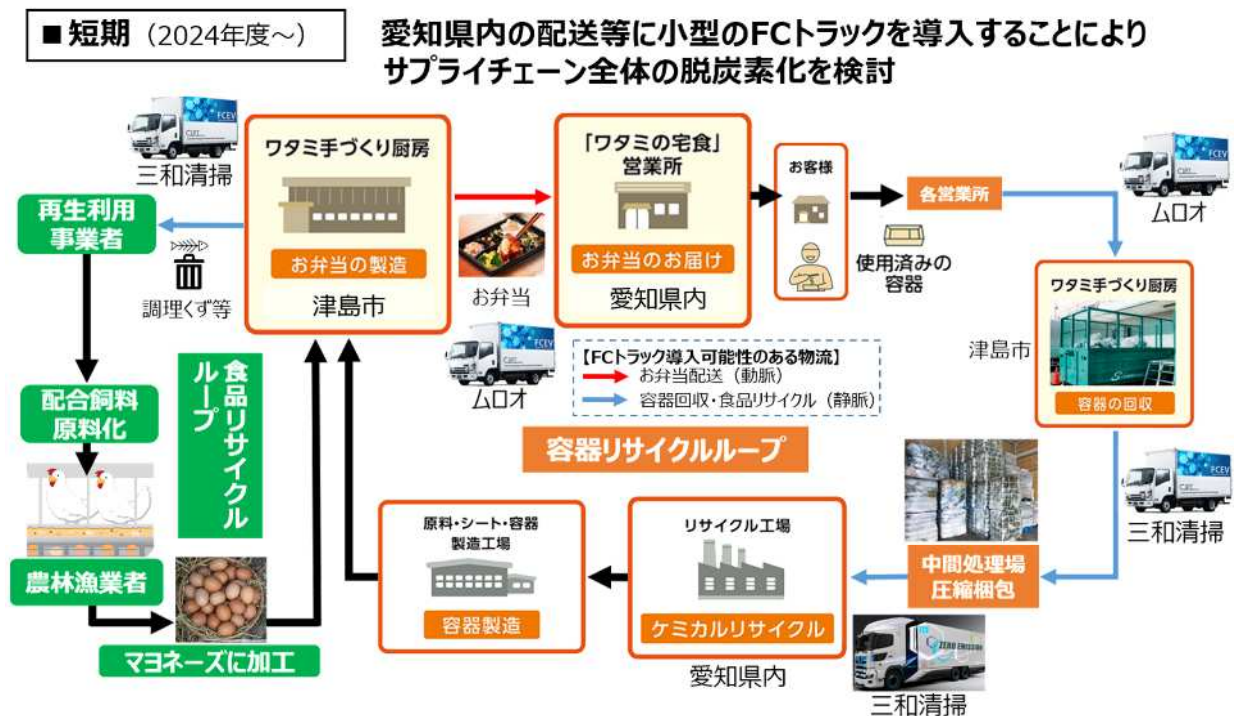


参考 物流脱炭素化プロジェクトについて

愛知県は、全国の民間企業等を対象に、革新的・独創的な脱炭素プロジェクトのアイデアを募集し、提案されたアイデアの中から事業化すべきプロジェクトを「あいちカーボンニュートラル戦略会議」で選定し、事業化の支援を行っている。

2023年12月に開催した戦略会議において、事業化を支援すべき脱炭素プロジェクトとして、ワタミ株式会社、株式会社ムロオ及び三和清掃株式会社から提案のあった配送等にFCトラックを活用する「荷主と運輸事業者等の連携による物流脱炭素化プロジェクト」が選定された。県は、このプロジェクトに対して、県内の荷主や運輸事業者等が参画する推進協議会の設置や、FCトラックを活用した物流脱炭素化のモデルスキームを構築することなどで、県内の物流脱炭素化に向けて、幅広く横展開できるように支援している。

1 プロジェクトの概要



■ 中期（2025年度～）

愛知県外（関西・北陸・静岡等）への配送（幹線輸送）等に大型のFCトラックの導入を検討

(1) 背景

愛知県における運輸部門のCO₂排出量は、産業部門に次いで2番目に大きい割合である。この中で、貨物自動車等の商用車によるCO₂排出量の割合は約40%であり、物流の脱炭素化が課題である。また、FCトラック本体や水素燃料の価格が高価であることや、効率的な水素ステーションでの充填といった課題もあり、FCトラックの導入が進んでいない。

(2) 内容

ワタミ株式会社の宅食事業は、津島市の工場で、再生可能エネルギー電気100%でお弁当を製造するとともに、容器や調理くず等をリサイクルする取組を実施している。

しかしながら、お弁当の配送（動脈）、使用済み容器・調理くずの回収等（静脈）の物流部分は脱炭素化できていない。サプライチェーン全体をより環境配慮型にするために、動脈・静脈の物流にFCトラックを先行導入するとともに、物流脱炭素化モデルスキームを構築し、県内の物流に幅広く横展開する。あわせて、効率的な水素供給の方策についても検討する。

（3）提案企業の主な役割

役割	会社名
プロジェクトの総括（荷主：宅食事業の展開）	ワタミ株式会社
FCトラックの導入検討（運輸事業者：主に動脈を担当）	株式会社ムロオ
FCトラックの導入検討（運輸事業者：主に静脈を担当）	三和清掃株式会社

2 支援の概要[物流脱炭素化プロジェクト推進費(34,696千円)]

（1）「あいち物流脱炭素化推進会議（仮称）」の設置

FCトラックによる物流脱炭素化を県内に横展開するため、荷主、運輸事業者等に参画を呼び掛け、推進協議会を設置する。また、ビジョン策定や県内事業者向けの普及啓発を実施する。

（2）モデルスキームの構築

FCとディーゼル・EV・合成燃料等の他燃料種と比較し、CO₂削減効果や効率性等の観点から検証する。また、水素供給について、自社水素ステーションを新規設置する場合と、既存水素ステーションを利用する場合等の比較・検証を実施する。これらの検証を踏まえて、県内の荷主・運輸事業者等に横展開できるモデルスキーム（運送ルート・水素充填スキーム）を構築する。

（3）FCトラックの導入需要の掘り起こし、とりまとめ

省エネ法に基づく特定荷主、特定輸送事業者[※]等に対して、ヒアリング調査を実施し、FCトラック導入に関する意向や支障事例等の調査を実施する。また、荷主に対して物流脱炭素化の必要性を訴求するため、業種ごとにサプライチェーン全体の物流部分のCO₂排出量について傾向分析を実施する。

※ エネルギー使用の合理化等に関する法律（省エネ法）では、特定荷主・特定輸送事業者に対して、非化石転換に関する中長期計画（2030年度が目標年）及び定期報告の提出が義務化されている。